

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
大郷町	大谷東部地域	令和4年3月15日	令和2年3月

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	502ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	318ha
③地区内における出し手の面積の合計	36ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	12ha
(備考)	

2 対象地区の課題

大谷東部地域では、高齢化が進んでいることや農作物の収益が上がらないなどの課題がある。また、地域の働き手(後継者含む)の不足や遊休農地の利活用をどのように解消していくか今後の課題となっている。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

中間管理機構を通して農地の集約化を図りながら、新品種の導入や高収益作物への転換、ほ場の大区画化による効率化、コスト削減を目指す。

4 3の方針を実現するために必要な取組に関する方針(任意記載事項)

○農地中間管理機構の活用方針

将来の経営農地の集約化を目指し、農地所有者は、出し手・受け手にかかわらず、農地を機構に貸し付けていく。また、中心経営体が病気や怪我等の事情で営農の継続が困難になった場合には、農地バンクの機能を活用し、農地の一時保全管理や新たな受け手への付け替えを進めることができるよう、機構を通じて中心経営体への貸し付けを進めていく。

○新品種の導入・高収益作物への転換方針

米、大豆等の土地利用型作物では、地域に合った新品種の導入や作付け体系などを検討していく。また、土地利用型作物以外では、収益性の高い野菜の作付けや、沢地等を活用した景観作物、子実用トウモロコシ等の生産も視野に普及センターやJAと連携し情報を収集する。

○ほ場大区画化への取組方針

農業の生産効率の向上や農地集積・集約化を図るため、大谷東部地域において、農地の大区画化・汎用化等の整備に取り組む。

大谷東部地域の課題と解決方法

